

テーマ:

わたしのトマト

～愛情をもって接し、「凜々子」の気持ちになる～

東京都
港区立高輪台小学校

鈴木 郁先生 福井 佳那江先生
丹羽 裕介先生 橘田 美穂先生



この活動の特徴



「凜々子」活用のポイント①

夏休み期間中に
苗を自宅に持ち帰れるように、
牛乳パックで植木鉢を作った

「凜々子」活用のポイント②

「凜々子」栽培前と後に
アンケートを行い、トマトに関する知識や
トマトに対する気持ちの変化を考察した

活動のねらい

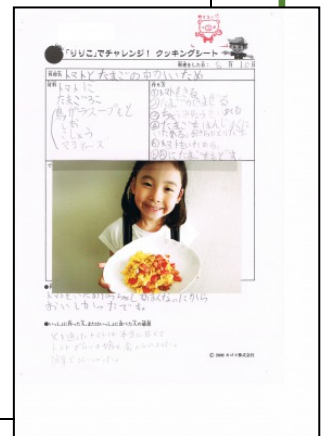


- 栽培活動を通して、「凜々子」の変化や生長の様子に気付き、植物を大切に育てることができるようになる

活動の概要と流れ

対象学年 : 2年生 (83名)
実践期間 : 4～9月

時期	学習活動
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培前、トマトに関するアンケートを実施し、児童のトマトに対する意識や知識を把握した ・「りりこわくわくプログラム」サイトを参考に、牛乳パックで鉢植えを作成し、「凜々子」の定植
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・「観察記録シート」の裏面にその日に撮影した苗の写真を貼り、苗の変化を視覚化した
7・8月	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会の日に「凜々子」の鉢を持ち帰ってもらい、夏休み期間中に各家庭で栽培、収穫した ・収穫した「凜々子」を各家庭で調理し、家族と味わった
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭で調理した「凜々子」料理のレシピや、トマトなどに関する情報を廊下に掲示した ・栽培後、トマトに関するアンケートを83名の児童に実施 栽培前に行ったアンケートと比較し、児童の変化を考察



ここがポイント！取組の工夫と実践の成果

夏休み期間中に各家庭に持ち帰れるように

これまで2回、「凜々子」の栽培活動に取り組んだ経験ある。

1回目は植木鉢で栽培したが、土の量が足りず、うまく収穫できなかった。2回目は学校の畑で栽培したが、収穫時期が夏休みと重なり、児童が収穫できなかった。

過去の経験を活かし、今年度は「児童が自分で収穫できる」ことを目標にした。栽培ガイドブックなどを参考に、牛乳パックでトマトの鉢植えを作った。

その結果、児童自身が自宅で収穫することができ、大事に育てた「凜々子」を家族と一緒に調理し、食べる事ができた。

栽培活動前と後に児童にアンケートを実施

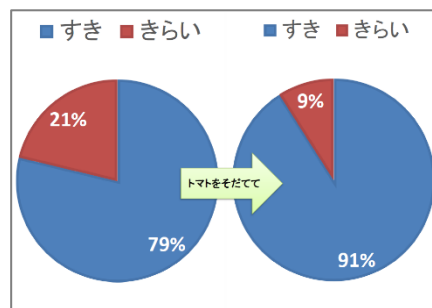
「凜々子」の栽培活動に入る前の5月と栽培活動後の9月に、2年生全児童83名にアンケートを実施した。トマトに関する知識や、トマトに対する思いなどを質問した。トマトに関する知識については「りりこわくわくプログラム」サイトにあった「児童向け配布資料」などのトマトクイズを参考にした。

2つのアンケート結果を比べると、「トマトが好き・嫌い」の項目は、5月には好きと答えた児童は79%だったが、9月には91%まで増加した。「凜々子」栽培活動

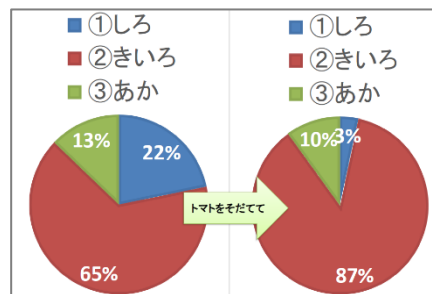
を通して、「トマト」を好きになった児童が増えたことがわかる。また、トマトの花の色、果実がなる時期などのトマトに関する知識も、栽培後には正答率が上がった。児童が毎日「凜々子」の世話をし、よく観察したことが、正答率の上昇につながったと考えられる。

●アンケート結果（抜粋）

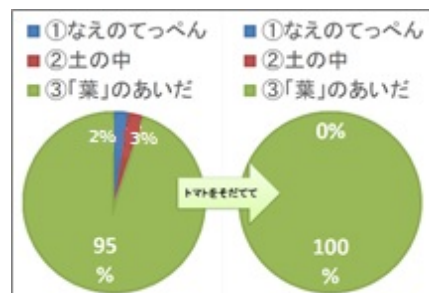
トマトはすき？きらい？



トマトの花の色は何色？



トマトの実はどこになる？



先生から一言！実践を通して

今回、「りりこわくわくプログラム」サイトに掲載されている情報をたくさん活用させていただきました。栽培活動は失敗すると、その年にやり直すことはできないため、慎重に進める必要があります。教師にはプレッシャーがかかります。大きなトマトを収穫し、喜んでいる児童の姿を見るのは、大変嬉しく、励みになります。私と同じようなことで悩むことがないように、後輩の先生方に今回の活動で習得した知識と経験を伝承することができれば、と思っております。

また、この活動を通じて、児童は植物を育てるの喜びなど、たくさんを学んだと思います。今回は大変充実した栽培活動になりました。



受賞理由

鉢栽培で一人ひとりが自分の凜々子を担当し、各自で責任を持ち栽培に取り組んだ好事例でした。観察シートを夏休みの宿題とするなど、児童の皆さんが意欲高く、課題に取り組まれた様子が伺えました。また栽培前、後に実施された「児童アンケート」は、活動の成果がわかりやすくまとめられていました。